

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成31年2月5日
【四半期会計期間】	第102期第3四半期（自平成30年10月1日至平成30年12月31日）
【会社名】	太陽化学株式会社
【英訳名】	TAIYO KAGAKU CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山崎長宏
【本店の所在の場所】	三重県四日市市山田町800番
【電話番号】	(059)340 - 0800（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役財務担当兼業務支援部長兼企業統括部長 増川尚利
【最寄りの連絡場所】	東京都港区浜松町一丁目6番3号 （太陽化学株式会社東京本社）
【電話番号】	(03)5470 - 6800（代表）
【事務連絡者氏名】	代表取締役副社長 山崎義樹
【縦覧に供する場所】	株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第101期 第3四半期連結 累計期間	第102期 第3四半期連結 累計期間	第101期
会計期間	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高 (百万円)	29,343	30,649	38,689
経常利益 (百万円)	2,992	3,227	3,813
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	1,997	2,169	2,584
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,785	1,908	3,017
純資産額 (百万円)	37,552	37,741	37,784
総資産額 (百万円)	47,877	48,574	48,301
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	108.86	118.30	140.88
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	75.9	75.9	75.9

回次	第101期 第3四半期連結 会計期間	第102期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年10月1日 至 平成30年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	36.01	37.22

- (注) 1.当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2.売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3.潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 4.「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益、雇用・所得環境の着実な改善を背景に、緩やかな回復基調で推移しました。一方海外は、米中貿易摩擦の拡大により金融資本市場や実体経済に与える影響が懸念されるなど、依然として不透明な状況が続いております。

当事業の主要分野であります食品業界におきましては、節約志向の継続により、企業を取り巻く事業環境は厳しい状況が続いております。

このような環境の中で当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）は、引き続き対処すべき課題として、市場変化への対応、販売の強化（グローバル化）、品質管理体制の維持・強化、環境への取り組み、人材育成、業務改善による全体最適化を掲げ、企業価値の向上に取り組んでおります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、306億49百万円（前年同四半期比4.5%増）となりました。営業利益は、化粧品・トイレタリー用途の乳化剤及びサプリメント用途の機能性食品素材の売上が増加したこと等により32億42百万円（前年同四半期比11.3%増）となりました。経常利益は、32億27百万円（前年同四半期比7.8%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、21億69百万円（前年同四半期比8.6%増）となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメントの状況は次のとおりであります。

ニュートリション事業

医療、健康食品及び飲料業界等にカテキン（緑茶抽出物）、テアニン（機能性アミノ酸）、水溶性食物繊維等の機能性食品素材、ミネラル製剤、ビタミン製剤等を製造、販売しております。

水溶性食物繊維は、国内市場の医療用途、飲料用途及び欧米市場の医療用途、サプリメント用途が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

カテキンは、国内市場、アジア市場及び欧米市場のサプリメント用途が減少しました結果、売上高は前年を下回りました。

ミネラル製剤は、欧米市場のサプリメント用途が堅調に推移し、国内市場の飲料用途が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

テアニンは、国内市場の化粧品用途及びアジア市場、米国市場のサプリメント用途が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

ビタミン製剤は、国内市場の飲料用途が減少しました結果、売上高は前年を下回りました。

この結果、売上高は、58億21百万円（前年同四半期比10.2%増）、営業利益は、11億66百万円（前年同四半期比15.7%増）となりました。

インターフェイスソリューション事業

乳製品、飲料、菓子、パン、加工油脂等の業界、及び化粧品、トイレタリー業界等に、乳化剤等の品質改良剤を製造、販売しております。

化粧品、トイレタリー用途は、国内市場及び海外市場が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

飲料用途は、国内市場が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

一般食品用途は、国内市場が堅調に推移しました結果、売上高は前年を上回りました。

この結果、売上高は、74億82百万円（前年同四半期比13.4%増）、営業利益は、14億14百万円（前年同四半期比18.9%増）となりました。

アグリフード事業

乳製品、飲料、菓子、パン、ハム・ソーセージ、即席めん、農産加工業界等に、鶏卵加工品、たん白素材、即席食品用素材、フルーツ加工品、農産加工品等の食品素材、品質改良剤、安定剤等を製造、販売しております。

鶏卵加工品は、国内市場のハム・ソーセージ用途等の粉末卵が減少しました結果、売上高は前年を下回りました。

即席食品用素材は、国内市場の即席めん用途が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

フルーツ加工品は、国内市場の冷菓用途が減少しました結果、売上高は前年を下回りました。

安定剤は、国内市場の製めん用途、医療食用途は減少しましたが、惣菜用途、デザート用途が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

この結果、売上高は、172億50百万円（前年同四半期比0.5%減）、営業利益は、6億45百万円（前年同四半期比6.9%減）となりました。

その他

料理飲食等の事業を行っております。

売上高は、95百万円（前年同四半期比20.8%減）、営業利益は、15百万円（前年同四半期比32.6%減）となりました。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は、総資産が前連結会計年度末に比較して2億73百万円増加して485億74百万円となりました。主な資産の変動は、受取手形及び売掛金の増加10億69百万円、原材料及び貯蔵品の増加7億70百万円、土地の増加14億89百万円、現金及び預金の減少22億42百万円、流動資産その他の減少3億16百万円、建物及び構築物の減少1億7百万円、有形固定資産その他の減少1億89百万円、投資有価証券の減少1億91百万円、投資その他の資産その他の減少1億21百万円です。

負債は、前連結会計年度末に比較して3億16百万円増加して108億33百万円となりました。主な負債の変動は、支払手形及び買掛金の増加5億86百万円、賞与引当金の増加1億62百万円、未払法人税等の減少2億46百万円、流動負債その他の減少1億54百万円です。

純資産は、前連結会計年度末に比較して43百万円減少して377億41百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益21億69百万円の計上、資本剰余金の減少5億78百万円、その他有価証券評価差額金の減少2億48百万円、為替換算調整勘定の減少2億68百万円、非支配株主持分の減少2億86百万円、配当金の支払による減少7億89百万円によるものです。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の75.9%から変更ありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた問題ははありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は9億58百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	90,000,000
計	90,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年12月31日)	提出日現在 発行数 (株) (平成31年2月5日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	23,513,701	23,513,701	名古屋証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株であり ます。
計	23,513,701	23,513,701	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年10月1日～ 平成30年12月31日	-	23,513,701	-	7,730,621	-	7,914,938

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成30年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成30年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 5,159,300	-	-
	(相互保有株式) 普通株式 20,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,328,300	183,283	-
単元未満株式	普通株式 5,401	-	-
発行済株式総数	23,513,701	-	-
総株主の議決権	-	183,283	-

(注)「単元未満株式」の欄には、自己株式が41株含まれております。

【自己株式等】

平成30年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
(自己保有株式) 太陽化学株式会社	三重県四日市市 山田町800番	5,159,300	-	5,159,300	21.94
(相互保有株式) 株式会社サンフコ	東京都千代田区 鍛冶町一丁目8番3号	20,700	-	20,700	0.08
計	-	5,180,000	-	5,180,000	22.02

(注)当第3四半期会計期間末日現在の自己株式数は、5,212,490株であります。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成30年10月1日から平成30年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、仰星監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,116,082	6,873,137
受取手形及び売掛金	10,890,547	11,960,336
商品及び製品	3,377,015	3,474,329
仕掛品	384,658	389,765
原材料及び貯蔵品	1,892,575	2,663,371
その他	892,386	576,319
貸倒引当金	31,071	12,261
流動資産合計	26,522,194	25,924,998
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,143,591	5,035,671
土地	6,788,449	8,278,208
その他(純額)	2,551,431	2,362,225
有形固定資産合計	14,483,471	15,676,104
無形固定資産		
のれん	12,608	-
その他	202,710	205,734
無形固定資産合計	215,319	205,734
投資その他の資産		
投資有価証券	4,864,117	4,672,760
その他	2,229,011	2,107,855
貸倒引当金	12,950	12,950
投資その他の資産合計	7,080,179	6,767,666
固定資産合計	21,778,970	22,649,506
資産合計	48,301,164	48,574,504

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,737,358	7,323,915
未払法人税等	611,784	365,656
賞与引当金	236,109	398,346
その他	1,825,312	1,670,405
流動負債合計	9,410,566	9,758,323
固定負債		
退職給付に係る負債	215,533	193,046
役員退職慰労引当金	399,829	426,514
その他	490,816	455,541
固定負債合計	1,106,178	1,075,102
負債合計	10,516,745	10,833,426
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,730,621	7,730,621
資本剰余金	7,918,674	7,340,648
利益剰余金	23,712,492	25,092,708
自己株式	4,613,233	4,697,412
株主資本合計	34,748,554	35,466,566
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,808,584	1,560,260
繰延ヘッジ損益	17,647	14,382
為替換算調整勘定	150,446	117,634
退職給付に係る調整累計額	40,905	31,720
その他の包括利益累計額合計	1,900,477	1,425,287
非支配株主持分	1,135,386	849,224
純資産合計	37,784,419	37,741,078
負債純資産合計	48,301,164	48,574,504

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	29,343,808	30,649,872
売上原価	21,816,069	22,665,584
売上総利益	7,527,738	7,984,287
販売費及び一般管理費	4,613,913	4,742,219
営業利益	2,913,825	3,242,068
営業外収益		
受取利息	27,990	35,221
受取配当金	45,611	52,336
持分法による投資利益	34,664	-
その他	62,752	40,401
営業外収益合計	171,019	127,959
営業外費用		
支払利息	8,682	3,834
貸与資産減価償却費	6,476	5,682
為替差損	1,258	79,265
持分法による投資損失	-	21,165
支払補償費	48,144	11,089
その他	27,911	21,977
営業外費用合計	92,474	143,015
経常利益	2,992,370	3,227,012
特別利益		
投資有価証券売却益	-	50,920
特別利益合計	-	50,920
特別損失		
固定資産除売却損	37,672	20,910
投資有価証券評価損	1,828	-
特別損失合計	39,501	20,910
税金等調整前四半期純利益	2,952,869	3,257,021
法人税等	872,762	988,969
四半期純利益	2,080,106	2,268,051
非支配株主に帰属する四半期純利益	83,011	98,595
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,997,094	2,169,456

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	2,080,106	2,268,051
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	497,635	247,645
為替換算調整勘定	179,432	149,766
退職給付に係る調整額	12,573	9,184
持分法適用会社に対する持分相当額	15,300	28,692
その他の包括利益合計	704,941	359,534
四半期包括利益	2,785,048	1,908,517
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,655,305	1,694,265
非支配株主に係る四半期包括利益	129,742	214,251

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
減価償却費	815,352千円	848,766千円
のれんの償却額	12,191千円	12,608千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月8日 取締役会	普通株式	734,194	40	平成29年3月31日	平成29年6月6日	利益剰余金
平成29年11月6日 取締役会	普通株式	183,546	10	平成29年9月30日	平成29年12月5日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
 該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年5月7日 取締役会	普通株式	605,695	33	平成30年3月31日	平成30年6月5日	利益剰余金
平成30年11月5日 取締役会	普通株式	183,543	10	平成30年9月30日	平成30年12月4日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
 該当事項はありません。

3. 当社は、平成30年7月2日付で、連結子会社タイヨールシードプライベートリミテッドの株式を追加取得しました。この結果、当第3四半期連結累計期間において、資本剰余金が578,025千円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ニュー トリション 事業	インター フェイス ソリューション 事業	アグリ フード 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	5,283,349	6,600,504	17,339,547	29,223,400	120,407	29,343,808
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	5,283,349	6,600,504	17,339,547	29,223,400	120,407	29,343,808
セグメント利益	1,008,054	1,189,583	693,433	2,891,071	22,753	2,913,825

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、料理飲食等の事業であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ニュー トリション 事業	インター フェイス ソリューション 事業	アグリ フード 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	5,821,333	7,482,319	17,250,909	30,554,562	95,310	30,649,872
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	5,821,333	7,482,319	17,250,909	30,554,562	95,310	30,649,872
セグメント利益	1,166,260	1,414,741	645,720	3,226,722	15,345	3,242,068

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、料理飲食等の事業であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
1株当たり四半期純利益	108円86銭	118円30銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	1,997,094	2,169,456
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	1,997,094	2,169,456
普通株式の期中平均株式数(千株)	18,345	18,339

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成30年11月5日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....183,543千円

(ロ) 1株当たりの金額.....10円

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成30年12月4日

(注) 平成30年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成31年2月4日

太陽化学株式会社
取締役会 御中

仰星監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 柴 田 和 範

指定社員
業務執行社員 公認会計士 堤 紀 彦

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている太陽化学株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成30年10月1日から平成30年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成30年4月1日から平成30年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、太陽化学株式会社及び連結子会社の平成30年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2 X B R Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。